

## 一般社団法人コミュニティシネマセンター

### 平成23年度(2011年度)事業報告

#### 1. 受託事業

##### (1) 映像アートマネージャー/メディア芸術マネージャー育成のためのワークショップシリーズ

(文化庁 平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

###### [総合講座]

###### 映像メディア・キュレーター養成講座Ⅰ～第6期シネマ・マネジメント・ワークショップ

開催期間:2011年7月中旬～2012年3月末

共催:特定非営利活動法人映画美学校 協力:東京国立近代美術館フィルムセンター

受講生:20名(本講座)、6名(映画史講座)

映画祭やミニシアターを含めた公共的な上映活動を推進するために、専門的なノウハウと理念を持って映画上映を行う人材を育成することを目的として開講する映画上映専門家養成講座。6期目となった今回の「映像メディア・キュレーター養成講座」は、これまでの内容を拡大し、メディア芸術に関する基礎知識、芸術文化活動としての上映活動に関する理念、映画の歴史、製作から保存にいたる専門的な知職、作り手(アーティスト)支援やアートマネジメント、デジタルコンテンツも視野に入れた映画館運営に関するノウハウまでを総合的に学んだ。

2011年7月～2012年3月の約10ヶ月にわたって開講、3月14日までに、毎週水曜日の本講座を32回、映画史講座を10回実施した。

講座の仕上げとして24年度に受講生自身による企画を実施する。

###### [映像教育プログラム専門家養成講座]

##### ① 映画教育プログラムのための集中講義 イン 広島 ※全国コミュニティシネマ会議と同時期に開催

開催期間:2011年9月1日(木)、3日(土)

フランスに本部を置く映画館支援機関「ヨーロッパシネマ」の協力を得て、ヨーロッパから映像教育の専門家を招き、映像教育の理念と実践を学ぶ集中講座と簡単なワークショップを9月1日と3日に開催した。ワークショップには映画教育プログラムの経験をもつ公共文化施設やコミュニティシネマ、映画館の若手スタッフなど計21名が参加し、また、3日の講座には100名近い参加者を迎えることができた。

##### ② 「高校生のための映画館」(「中学生のための映画館」)プログラム ワークショップ

実施期間:2011年4月～2012年3月末

このワークショップでは、若年層の観客増を目指して、特に「高校生」(あるいは中学生)を対象に、映画映像の魅力を伝えるための鑑賞プログラムを共同で企画、川崎市アートセンター、金沢シネモンド、シネマ尾道の各館で上映会・ワークショップを開催した。

また、上記①と②に関する報告書を作成した。

##### (2) 全国コミュニティシネマ会議2011 イン 広島 の開催 (広島市文化財団/広島市映像文化ライブラリー)

開催時期:2011年9月2日(金)～3日(土)

開催会場:広島市映像文化ライブラリー

今回の会議は「シネマエール東北～映画の可能性を信じて」をテーマに掲げ、東日本大震災という未曾有の大災害に直面したいま、映画にできることは何なのかを改めて考えた。基調報告では、岩手、宮城、福島を中心とした地域で上映会を開催してきた各県の上映団体がそれぞれの上映活動を報告、ディスカッションでは被災地域の新しいまちづくりの中で実現可能な上映スペースのあり方などについて話し合

った。

二日目は「映像教育」を取り上げた。ヨーロッパの映画館やシネマテークで行われている映画教育プログラムの現状、とりわけ若い観客を育成するためのプログラムの現状を聞くと同時に、「高校生のための映画館」プロジェクトの中間報告を行った。(上記[映画教育プログラムのための集中講義 イン 広島]参照) 会議には200名近い参加者を迎えることができた。

また、上映会では、広島市映像文化ライブラリーのコレクションに加え、フレデリック・ワイズマンレトロスペクティブのプレミア上映として『ボクシング・ジム』を上映、多くの観客を迎えることができた。

**(3) EU フィルムデーズ 2011 の巡回 (主催: 駐日欧州連合代表部、EU 加盟国大使館・文化機関)**

実施期間: 2011年5月26日～6月26日(フィルムセンターでの上映は6月19日まで)

東京国立近代美術館フィルムセンターを会場に毎年開催されているEU フィルムデーズを、京都(同志社大学寒梅館ホール、岡山(岡山県立美術館)、香川(香川県社会福祉総合センター)、山口(山口情報芸術センター)、広島(広島市映像文化ライブラリー)に巡回、2000名近い観客を迎えることができた。

## 2. 自主事業

### [1] 映画応援団—シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

2011年6月～2012年3月の10ヶ月で、のべ210回、158会場で上映会を実施することができ、約8000人の参加者を迎えることができた。

上映作品は、のべ40作品にのぼるが、仮設住宅の集会所などでの上映は主にDVDで行った。これらの作品は、映画会社の好意により無償提供されたもので、子ども向けの上映会では「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」（東宝）や「ワンピース」（東映）、「トイストーリー3」「カールじいさんの空飛ぶ家」（以上東和プロモーション）といった作品を上映、高齢者向けには「男はつらいよ」シリーズや「釣りバカ日誌」シリーズ（松竹）、あるいは「暎の母」といったクラシック作品を上映、家族向けには「旭山動物園 ペンギンが空を飛ぶ」（角川） 「Allways 三丁目の夕日」（東宝）等の作品を上映、多くの人たちに喜んでいただくことができた。

被災地域の復興・復旧に伴い、公共文化施設の使用も可能となり、35ミリフィルムでのやや規模の大きな上映会も実施することができた。被災地の映画館「みやこシネマリー」や「一関シネプラザ」では映画監督崔洋一氏や李相日氏をゲストに迎えて『フラガール』を上映、塩竈や多賀城市ではサイレント映画を活弁+演奏付で上映することができた。

今後も、小規模な上映会を重ねつつ、被災地の人たち自身にもできるだけ上映会の制作・運営に参加してもらおうことを心がけ、継続的に上映活動を行うことができる仕組み作りを考え、映画館が失われて久しいこの地域に映画文化を残していきたいと考えている。

上映会場数 158会場 上映回数 210回 参加者数 約8000人

上映会開催市町村

岩手県：宮古市、野田村、山田町、大船渡市、大槌町、釜石市、岩泉町、田野畑村、陸前高田市

宮城県：仙台市若林区、仙台市宮城野区、多賀城市、石巻市、蔵王町、気仙沼市、塩竈市、高砂市、名取市、東松島市、山元町、亘理町

福島県：会津若松市、飯館村（飯野町）、いわき市、福島市、郡山市、南相馬市、相馬市、二本松市、伊達市、その他 山形県の飯豊町、南陽市、赤湯温泉、米沢市、山形市

2011年12月末までの募金の総額は、460万8051円。（個人、団体を含む130件）これには、東京国際映画祭での募金活動による153万3828円、湯布院映画祭でのオークションで集めていただいた44万911円も含まれる。

**共催**：東日本映画上映協議会

**現地事務局・実施団体**：

岩手県・みやこシネマリー

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

**特別協力**：東京国際映画祭/財団法人日本映像国際振興協会（ユニジャパン）

**支援**：芸術文化振興基金、中央共同募金会

※2011年度決算書添付。

## [2] シネマ・シンジケート プロジェクト

### (1) 選定・推薦作品

#### ・イエジー・スコリモフスキ監督『エッセンシャル・キリング』の上映

「アンナと過ごした4日間」に続くイエジー・スコリモフスキ監督の新作として紹介。加盟館含め 32 劇場（東京メイン館除く）で上映。動員：6,337 人、興行収入：7,498,720 円

### (2) コミュニティシネマセンター配給受託事業

#### ・加盟館出資参加型映画『悲しみのミルク』の配給。

川崎市文化財団（川崎市アートセンター）が KAWASAKI アーツ（KAWASAKI しんゆり映画祭）出資参加映画「悲しみのミルク」の配給協力。配給を東風、ビデオライツ、テレビライツを日本スカイウェイに委託。

加盟館含め 27 劇場（東京メイン館除く）で上映。動員：4,395 人、興行収入：4,981,000 円。

#### ・BMS—ユーロスペース共同配給プロジェクトの配給受託—

#### ジュリアン・シュナーベル監督「MIRAL」、レフ・マイエフスキ監督「ブリューゲルの動く絵」の共同配給

ブロードメディアスタジオとユーロスペース、コミュニティシネマセンターが協議して洋画作品を購入し、劇場権をユーロスペース・コミュニティシネマセンター、DVD 権、TV 権をブロードメディア社が行使するプロジェクト。

「ミラル」—全国 24 館で上映。動員：5,986 人、興行収入：7,160,000 円

「ブリューゲルの動く絵」—全国 38 館で上映。動員：23,065 人、興行収入：28,590,000 円

#### ・加盟館製作参加型の邦画への支援

函館発映画『海炭市叙景』に続く加盟館製作参加型映画へのアプローチを開始。浜松シネマイーラが発信する中沢けい原作、鈴木卓爾監督の「楽隊のうさぎ」を製作、配給支援する。原作権は取得済、脚本は大石三知子、プロデューサーは『海炭市叙景』の越川道夫。『海炭市叙景』とほぼ同額の予算規模を想定。

#### ・コミュニティシネマセンター・クラシック

『赤い靴—デジタルリマスター』—加盟館含め 32 館（東京メイン館除く）

動員：7,763 人、興行収入：8,527,600 円

『歴史は女で作られる—デジタルリマスター』—上映中、加盟館含め 10 館（東京メイン館除く）

動員：1,699 人、興行収入：1,869,800 円

その他、『ナッシュビル』、『天国の日々』、『アンダーグラウンド』などを上映。

#### ・監督特集企画

「クロード・シャブロール未公開傑作選」、「ロベール・ブレッソン傑作選」を上映。

#### ・注目すべき新作

第 60 回カンヌ映画祭で審査員特別賞を受賞した監督マッテオ・ガローネの『ゴモラ』を上映。

『ゴモラ』—上映中、加盟館含め 23 館（東京メイン館除く） 動員：5,707 人、興行収入：6,810,500 円

### (3) 事業外活動

#### ・映画館のデジタル化へ向けた情報収集と情報提供

9 月—全興連、外配協へ向け開催されたVPFスキームの説明会を実施するようデジタル・シネマ倶楽部へ要請。

10 月—東京映画祭開催時、「独立系映画事業者（製作・配給・映画館）合同ミーティング」を開催。

11 月—東京 FILMEX 共催「デジタル化による日本における映画文化のミライについて」を開催。

3 月—大阪アジア映画祭主催「映画館のデジタル設備導入に関して」に参加

大手配給、興行各社を中心に、上映素材・映画館のデジタル化が急速に進むなか、デジタル機材の特質、VPFスキームの成り立ちなど情報共有から課題表出などの活動をする。特にVPFスキームによるデジタル化が困難な独立系映画館への情報提供、機器導入に向けた可能性、新しいスキーム構築への模索を行った。

### [3] シネマテーク・プロジェクト

#### (1) 第4弾「FREDERICK WISEMAN RETROSPECTIVE フレデリック・ワイズマンのすべて」

2011年のシネマテーク・プロジェクトでは、「FREDERICK WISEMAN RETROSPECTIVE フレデリック・ワイズマンのすべて」を開催(2011年10月29日～11月25日)、1967年の『チチカット・フォーリーズ』から2010年の『ボクシング・ジム』まで、ワイズマン監督作品全38本を上映、ワイズマン監督も来日し、ユーロスペース(10/29、30)、高知県立美術館(11/3)、神戸アートビレッジセンター(11/4)、金沢21世紀美術館(11/5)、立命館大学(11/6)に来場、トークイベントを行った。その後、シネマテーク・プロジェクトに加盟する8会場に巡回、ユーロスペースでは、6,131人を動員、全国では2012年3月までに10000人を超える観客を迎えることができた。

また、カタログ(A4版/87ページ)を編集・発行した。

#### 共催・巡回会場:

ユーロスペース(東京)/金沢21世紀美術館(金沢市)/立命館大学(京都市)/神戸アートビレッジセンター(神戸市)/広島市映像文化ライブラリー(広島市)/山口情報芸術センター(山口市)/高知県立美術館(高知市)/川崎市アートセンター(川崎市)/川崎市市民ミュージアム(川崎市)

#### (2) 第3弾「日本ポルトガル修好通商条約150周年ポルトガル映画祭2010」

2010年秋以降、巡回している「ポルトガル映画祭～マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち」、2011年度は、6月の福岡市総合図書館での上映後、東京最終上映をアテネ・フランセ文化センターで開催した(2011年7月29日～8月13日)。

### [4] 映画の巡回/特集上映会の開催

#### (1) 「松竹キネマ90周年記念企画:渋谷実監督特集/松竹を代表する10人の女優たち」巡回

(共催:東京国立近代美術館フィルムセンター(渋谷実監督特集)、提供:松竹株式会社)

1920年の松竹キネマ合名会社にはじまる「松竹映画」は、2010年に90周年を迎えた。これを記念して松竹では「ゴールデン・クラシック 1950 松竹黄金期の三大巨匠」と「女優王国—日本が恋する女優たち」のふたつの特集上映を開催。コミュニティシネマセンターでは、これを全国巡回用にアレンジして「女優王国—松竹を代表する10人の女優たち」と「渋谷実監督特集」を全国に巡回した。2011年3月までに、12会場に巡回、4500人を超える観客を得ることができた。

上映会場:

SKIPシティ(埼玉)/三原リージョンプラザ(広島)/島根県民会館(島根)/清水文化センター(静岡)/シネマ・ヌーベル(山口)/広島サロンシネマ(広島)/広島市映像文化ライブラリー(広島)/高知県立美術館(高知)/シネマモード2(広島)/山口情報芸術センター(山口)/シネマ尾道(広島)

上映作品(女優王国—日本が恋する女優たち):

「愛染かつら」(総集編)田中絹代・野村浩将/「按摩と女」高峰三枝小・清水宏/

「安城家の舞踏会」原節子・吉村公三郎ほか全10作品。

上映作品(渋谷実監督特集):「本日休診」1952/「現代人」1952/「もず」1961ほか全10作品

(フィルムセンタープリント提供作品:「奥様に知らずべからず」1937/「自由学校」1951/「正義派」1957/「気違い部落」1957)

**(2) ヤスミン・アフマド監督レトロスペクティブの開催・巡回（東京会場:ユーロスペース）**

コミュニティシネマセンターが日本での上映権を取得した4作品（『ラブン』『細い目』『グブラ』と『ムアラフー改心』）に、現在も国際交流基金が権利をもつ『ムクシン』、国内に日本語字幕付プリントがある遺作『タレントタイム』を合わせてヤスミン・アフマド監督全長編を上映する特集を7月16日～22日、ユーロスペースで開催。約900人の観客を迎えることができた。その後『タレントタイム』は全国6会場でも上映された。

上映会場:

SKIPシティ(埼玉)/長岡アジア映画祭(新潟)/東京国際映画祭(東京)/多摩シネマフォーラム(東京)/福岡市総合図書館(福岡)/京都文教大学(京都)

**(3) 所蔵フィルムの巡回など。**

当センターが保有するワイズマン、ヤスミン・アフマド監督作品をはじめ、配給委託作品等の貸出を行った。

**[5] コミュニティシネマ賞の授賞**

2011年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で、モハマド・シルワーニ監督『イラン式料理本』と、「東北大震災復興支援上映プロジェクト“CINEMA WITH US”にもある」(企画)に対してコミュニティシネマ賞を授賞した。

今年度は、映画祭に参加する全国のコミュニティシネマセンター会員から意見を募集し、映画祭最終日の前日に参加可能な人たち全員でディスカッションをして授賞作品を決定した。

2009年の同賞受賞作作品「ビラル」(ソーラヴ・サーランギ監督)の配給・上映を検討した。

**[6] その他の事業**

**(1) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど**

DLPを導入した館への情報提供や作品提供のための渉外活動など、コミュニティシネマに対するアドバイスをを行った。

**(2) ウェブサイトの運営、会員制度の充実など**

ウェブサイトの改編作業を進めるなど、会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかった。

平成23年度 貸借対照表  
平成24年3月31日現在

一般社団法人 コミュニティシネマセンター

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金預金	3,053,394	2,347,044	706,350
未収入金	29,073,829	24,589,510	4,484,319
仮払金	200,000	291,400	-91,400
貸倒引当金	-140,000	-150,000	10,000
流動資産合計	32,187,223	27,077,954	5,109,269
<b>2 固定資産</b>			
器具備品	38,266	76,533	-38,267
フィルム	128,025	495,321	-367,296
上映権	1,086,941	2,511,278	-1,424,337
有形固定資産合計	1,253,232	3,083,132	-1,829,900
固定資産合計	1,253,232	3,083,132	-1,829,900
<b>資産合計</b>	<b>33,440,455</b>	<b>30,161,086</b>	<b>3,279,369</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金	200	200	0
未払金	45,078,052	34,122,533	10,955,519
預り金	627,749	1,053,684	-425,935
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	1,015,000	0	1,015,000
流動負債合計	46,791,001	35,246,417	11,544,584
<b>負債合計</b>	<b>46,791,001</b>	<b>35,246,417</b>	<b>11,544,584</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1 一般正味財産</b>	<b>-13,350,546</b>	<b>-5,085,331</b>	<b>-8,265,215</b>
正味財産合計	<b>-13,350,546</b>	<b>-5,085,331</b>	<b>-8,265,215</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>33,440,455</b>	<b>30,161,086</b>	<b>3,279,369</b>

平成23年度 正味財産増減計算書  
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

一般社団法人 コミュニティシネマセンター

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受託事業収入	16,376,476	19,378,614	-3,002,138
自主事業収入	85,997,818	81,128,120	4,869,698
経常収益計	102,374,294	100,506,734	1,867,560
(2) 経常費用			
給与手当	15,120,000	15,527,900	-407,900
雑給	2,884,600	4,721,776	-1,837,176
法定福利費	1,818,042	2,048,638	-230,596
福利厚生費	71,408	30,161	41,247
荷造運賃	1,212,344	2,122,345	-910,001
減価償却費	3,709,490	2,433,819	1,275,671
修繕費	17,390	115,305	-97,915
事務用品費	898,621	1,613,242	-714,621
消耗品費	262,670	244,917	17,753
コピー料		0	0
広告宣伝費	440,635	2,395,963	-1,955,328
水道光熱費	53,999	330,416	-276,417
旅費交通費	5,951,865	4,116,932	1,834,933
映画料	38,858,899	49,289,550	-10,430,651
手数料	1,003,148	972,763	30,385
租税公課	1,083,966	56,765	1,027,201
交際接待費	29,127	62,626	-33,499
保険料	85,230	89,370	-4,140
通信費	349,147	432,767	-83,620
新聞図書費	46,360	297,617	-251,257
地代家賃		0	0
会議費	1,617,866	1,821,065	-203,199
業務委託費	31,770,443	17,033,713	14,736,730
保管料	685,766	628,311	57,455
貸倒引当金繰入	-10,000	14,000	-24,000
雑費	379,253	216,129	163,124
経常費用計	108,340,269	106,616,090	1,724,179
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
受取利息	850	843	7
雑収入	57,265	20,890	36,375
経常外収益計	58,115	21,733	36,382
(2) 経常外費用			
貸倒損失	2,287,355	0	2,287,355
経常外費用計	2,287,355	0	2,287,355
税引前当期正味一般財産増減額	-8,195,215	-6,087,623	-2,107,592
法人税等	70,000	70,000	0
			0
当期正味一般財産増減額	-8,265,215	-6,157,623	-2,107,592
正味一般財産期首残高	-5,085,331	1,072,292	-6,157,623
正味一般財産期末残高	-13,350,546	-5,085,331	-8,265,215
			0
II 正味財産期末残高	-13,350,546	-5,085,331	-8,265,215



## 個別注記表

自平成23年4月1日

至平成24年3月31日

- I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記  
この計算書類は、公益法人会計基準及び公益法人会計基準の運用指針によって作成しています。
1. 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産 法人税法の規定による定額法
  2. 引当金の計上基準  
貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定による法定繰入率により計上するほか、個々の債権の回収可能性を勘案して計上しています。
  3. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。
- II. 関連当事者との取引に関する注記
1. 代表理事が議決権の過半数を所有している会社等
    - ①法人等の名称 有限会社 ユーロスペース
    - ②住所 東京都渋谷区円山町
    - ③事業の内容 映画興業
    - ④議決権の所有割合 0%
    - ⑤役員等の兼務等 兼務1名
    - ⑥取引の内容 業務委託等
    - ⑦科目及び残高 未収入金 4,630,817円 未払金 7,248,768円